

研究開発課題「地域資源活用型探求学習による地域と世界を結ぶ科学技術人材の育成」

平成29年度文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）第2期の指定を受けました。新元号『令和』となった記念すべき本号では、今年度1学期中に行われた事業と今後行う予定の授業をそれぞれご紹介します。

令和元年度 サイエンス・ダイアログ①

5月23日（木）5・6限に、3年国際探究科の生徒対象にサイエンス・ダイアログを実施しました。講師として、京都府立大学よりDr. Carlos HEREDIA-CHIMENOにお越しいただき、英語による授業を実施しました。Dr. Carlos HEREDIA-CHIMENOは、「変化の時代における『衰退言説』：後期共和制・帝政前期ローマの説明原理」を専門分野とされており、スペインとカタロニアの文化についてと、研究に入るきっかけを分かりやすく講義してくださいました。

【生徒感想】・歴史の話が面白かった。・動画も用意してくださり、興味が持てた。・学校ではアメリカ英語が教えられるため、アメリカ英語以外の英語に触れることができたのはよい機会だったと思う。

【講師感想】みなさん興味を持って聞いてくださいましたおかげで、こちらも楽しく講義をすることができました。歴史を学ぶことは、すぐに利益に直結はしませんが、これから生きていく上で非常に重要なことだと思います。ぜひ、歴史について興味を深めていただき、批判的思考でのごとを見ていただきたいと思います。

【サイエンス・ダイアログってご存知ですか？】

日本学術振興会のフェローシップ制度で来日している優秀な若手外国人研究者（JSPSフェロー）に有志を募り、近隣の高等学校等に対して英語での研究に関するレクチャーを提供するプログラムです。地域の大学や研究機関で活躍しているJSPSフェローから、英語で研究の話を聞くという経験が、生徒達に大きな刺激を与え、研究への関心・国際理解を深めるだけでなく、JSPSフェロー自身にとっても、地域社会と交流し、日本とのつながりを深めることを狙いとしています。



小浜市研究発表会

5月24日（金）、小浜市役所1階ロビーにおいてSSH小浜市研究発表会を開催しました。3年理数探究科および海洋科学科の生徒が、取り組んできた課題研究の成果についてポスターを用いて発表・質疑応答を行い、プレゼンテーション能力の向上を図ります。小浜市民の皆さんに発表し、本校SSHの取り組み成果について広く発信することが目的です。昨年度は、評価の高かった1グループが本校代表として全国生徒研究発表会に出場しました。どのグループも素晴らしい研究成果の中、今年度は審査の結果、「マイクロプラスチックの発生源特定」に決まり、8月7日・8日に行われるSSH全国生徒研究発表会（神戸国際展示場）に出場が決定しました。



1学期の主な取り組み

6月

- ・探究協働会議（2年国際探究科）
- ・探究協働会議（2年理数探究科）
- ・探究協働会議（2年普通科文系）
- ・探究協働会議（3年国際探究科）
- ・地域の方から学ぼう（1年生）



▲各研究分野の研究者の方々にお越しいただき、目的・背景などの研究手法について助言をいただく、大変貴重な機会です。今年度からは、探究各科ごとに計3回実施する予定です。



▲小浜・おおい・高浜・若狭の4市町の行政に携わる方々をお招きし、市民生活、医療、農林水産業、観光、スポーツなど様々な分野に分かれて地域が抱える現状や課題に関する話題提供をしていただき、議論を行います。今年度、第1回目は6月12日（水）に実施されました。

7月

- ・サマーセミナー（1年文理探究科）
- ・高校生環境フォーラム
- ・物理チャレンジ予選
- ・生物学オリンピック予選
- ・化学グランプリ予選



▲生徒実行委員が中心となり、口頭発表・ポスター発表・研修会を行います。本校生徒に加え、県内外より参加いただいた高校生の皆さんと環境をテーマに交流します。

8月

- ・生徒研究発表会
- ・京大訪問研修
- ・阪大訪問研修



▲科学技術振興機構主催の全国発表会です。昨年度は、小浜市研究発表会にて評価の高かった1グループが本校代表として出場し、ポスター発表賞を受賞しました。



▲希望者生徒による訪問研修です。大学院生のサポートを受け、実験等を体験します。成果発表等もあり、とても貴重な経験ができます。

5月19日(日)in 9th IWG meeting

2年1組国際探究科の竹内陽渚さんが、カナダで開催された9th IWG meetingに参加しました。会議には40カ国から400人の人(教育関係者、政治家、学生etc)が参加し、世界の教育の課題について3日かけて話し合います。16歳の竹内さんの意見や考えが国際会議で取り扱われ、さらに世界が抱えている課題解決につながることを実感できる貴重な体験をすることができたとのことです。同年代の人とのディスカッションの中で若者の意見は新しく、意思が強いものが多いと感じたそうです。だから、若者の声を届ける場を考えていく必要があると。今回の経験は、竹内さんが成長する大きなきっかけになったと話してくれました。

